

これからの科学・技術研究についての提言
(神経科学者SNS若手有志とりまとめより)

大隅典子 (東北大学)

第4期科学技術基本計画策定に向けた各種提言等

▶ 第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言

▶ 平成21年11月16日 日本学術会議 日本の展望委員会

▶ 科学・技術・イノベーションの中期政策に関する提言

▶ 平成21年12月15日 (社)日本経済団体連合会

▶ 我が国の中長期を展望した科学技術の総合戦略に向けて—ポスト第3期科学技術基本計画における重要政策—中間報告

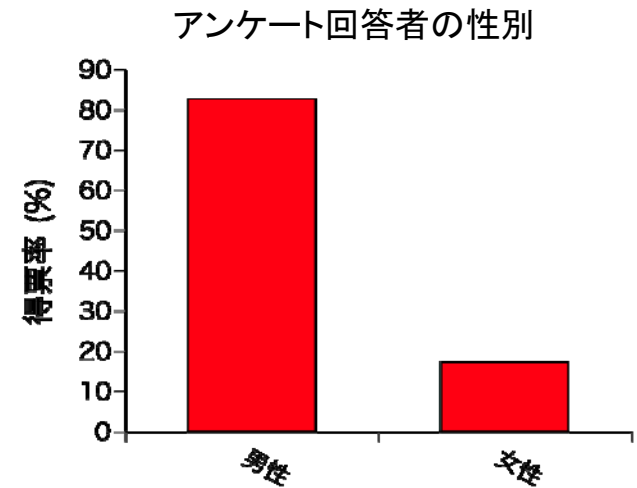
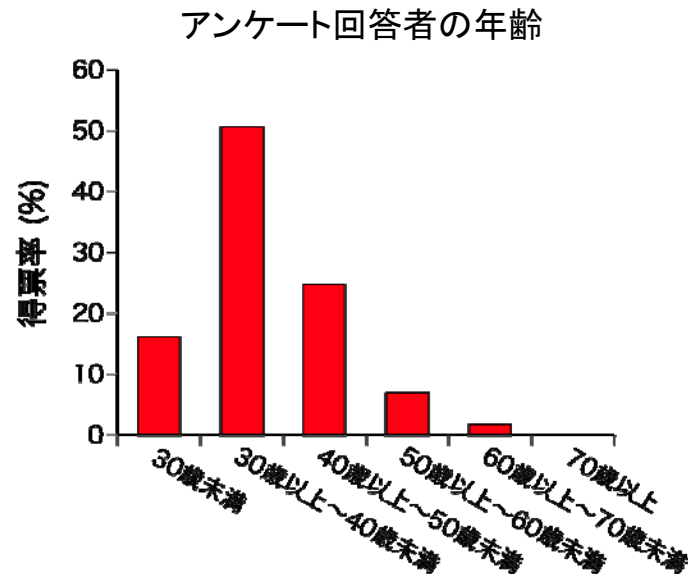
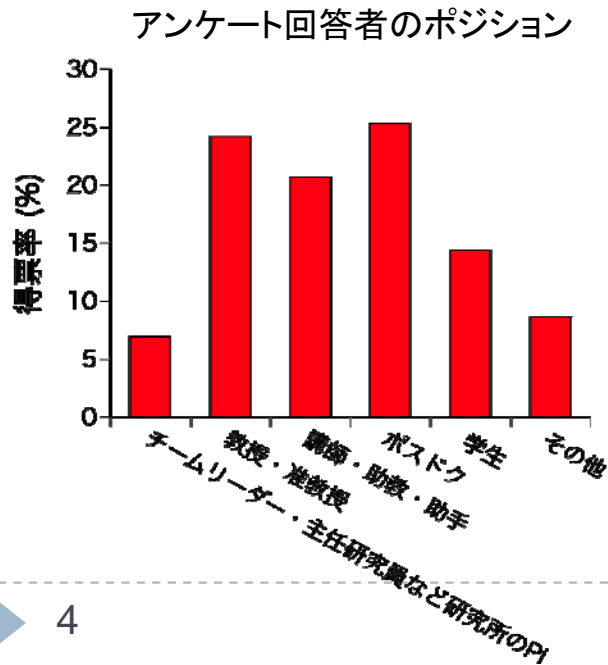
▶ 平成21年度12月25日 文部科学省 科学技術・学術審議会 基本計画特別委員会

現場の若手研究者の意見

- ▶ 「事業仕分け」をきっかけとして科学・技術政策に関する関心が高まった
 - ▶ オープンに議論がなされた
 - ▶ 多くの研究者が、科学政策について自分自身も積極的に関わっていくべき問題として、大きな関心をもった
 - ▶ ムダはないかという問いかけがなされた
 - ▶ 日本の研究者社会のシステムに潜む研究費や労力のムダを改善できないか
 - ▶ 研究費は国民の方々の税金から出ているという事実がよくわかった
 - ▶ 官僚の方々や高名な研究者たちにだけでなく、政治家や国民の皆様に日ごろから説明していくことの重要性を痛感した

提言へのプロセス

- ▶ 神経科学者ソーシャルネットワーキングサービス(メンバー1515名)内の、「事業仕分けコミュニティ(44名)」で、事業仕分けを受けて議論
- ▶ 神経科学者SNSメンバーを対象に、30の簡易電子アンケート(@Nifty投票)を実施、170名以上からの回答
- ▶ コミュニティメンバーによる計30万字近くの議論とアンケート結果を基に、Google wave内で原稿作成
- ▶ 平成22年2月4日公開:神経科学者SNS「事業仕分けコミュニティ」による「これからの科学・技術研究についての提言」
 - ▶ http://ibr.neuroinf.jp/modules/xoonips/detail.php?item_id=25801



現場が提案する研究システムの再構築

▶ 現場の知恵を低コストでオープンに集約し、科学・技術政策に活かす仕組み

- ▶ 科学・技術政策の決定や調整のプロセスがよりオープンになることを希望(84%)。
- ▶ 日本でも分野横断的な研究者の組織を立ち上げたほうが良いと回答(88%)。
- ▶ 納税者に対して、研究への理解を深めていただく活動をもっと行うべきと回答。情報通信技術を活用した分野横断的な研究者の組織で、より直接的な科学コミュニケーションを(75%)。

▶ 研究費(税金)と研究者の時間を効率的に活用

- ▶ ムダを生む単年度予算。研究関係者が複数年度予算の制度を導入するべきと回答(94%)。
- ▶ 日本の大学・研究機関にはムダな事務手続きや書類作成が多いと回答(97%)。
- ▶ 海外からの研究関連機器購入時の高額マーシンの是正、お古の機械の再利用、高額機器の共同利用の促進、経歴・業績などの一括管理による事務の簡素化、情報通信技術を活用したネット会議で出張を減らす、などでムダを削減可能。
- ▶ 我が国の知的資産としての若手研究者の頭脳がムダに消費され、使い捨てされている。若手研究者の能力を伸ばし、より社会に活用される仕組みを。

研究者コミュニティと社会をどのようにつなぐか？

	科学者の会議	普及団体
起源？	Academie Francaise(仏 1635)	Gesellschaft Deutscher Naturforscher und Arzte (独 1822)
イギリス	The Royal Society of London for the Improvement of Natural Knowledge (1660)	British Association for the Advancement of Science (1831)
アメリカ	United States National Academies (1863)	American Association for the Advancement of Science (1848)
日本	日本学士院(1879) 日本学術会議(1949)	X

1. 単年度予算制度について：単年度予算の制度についての意見ををお願いします。
2. 輸入物品のマージンについて：欧米からの科学技術関係の物品を輸入・販売する場合、現地での販売価格の何倍までが適正？
3. お古の機器の活用について：お古になった科学技術関係の高額機器の再利用やオークションにかけるシステムの導入は？
4. 高額機器の共同利用について：高額機器の共同利用は促進すべきでしょうか？
5. 機関間の研究費のやり取りについて：機関間の共同利用・共同研究促進のため研究費のやり取りを容易にするべき？
6. 無駄な手続きは多いか？：大学・研究機関には無駄な事務手続きや書類作製などが多いと思いますか？
7. 研究者IDで経歴・業績など一括管理：研究者IDに経歴・業績などが登録され、各種書類にそのIDを記入するだけというシステムは？
8. 重要な科学政策の会議はオープンに？：重要な科学政策立案の会議はよりオープンにするほうが良いのでは？
9. 分野横断的な研究者の組織の立ち上げ：若手も含めてすべての科学分野の研究者が参加可能な組織を日本で立ち上げるのと良いのでは？
10. 予算配分の方法：現在の科研費や大型プロジェクトの予算配分の方法は適当だと思いますか？
11. 科研費の分野・細目：科研費の分野、細目の分類は適切だと思いますか？
12. 研究成果の評価を改良するには：研究成果の評価をよりフェアで実質的なものにするにはどうすればよいでしょうか？
13. 評価に応じた安定的研究費の導入：研究者の過去の実績を評価し、それに応じた額を安定的に支給するタイプの研究費の導入は？
14. 研究者キャリアパスの魅力は十分？：現在の研究者のキャリアパスは、これから研究者を目指す人にとって魅力が十分だと思いますか？
15. アカデミックポストのあり方：アカデミックポストのあり方として、次のうちどれが望ましいでしょうか？

16. その他のキャリアについて：もしアカデミックポストが得られなかった場合、次のキャリアとしてどれを望みますか？
17. テニユア・トラック制度の拡充：日本でもテニユア・トラック制を拡充することについて、どのように思いますか？
18. テニユア・トラック制度導入で留意すべきこと：テニユア・トラック制度を推進していく場合、次のうちどれに留意すべきでしょうか？
19. 女性研究者の採用促進：女性研究者の採用促進の政策はどうあるべきと思いますか？
20. 博士課程の院生の適正人数：一人の指導者が教える博士課程大学院生の数は最大何人くらいが適当だと思いますか？
21. 大学院のカリキュラム：大学院のカリキュラムについてどう思いますか？
22. 複数の指導教官による指導：複数教官による大学院指導のシステムの普及を促進した方が良いでしょうか？
23. 大学院の全国共通テスト：大学院入試の学科試験の一部を、全国共通テストとして行うことについてどう思いますか？
24. 科学コミュニケーションは十分か？：ご自分の研究成果の重要性や意義について、納税者への説明は十分だと思いますか？
25. ネット上での研究の解説1：出版した論文のうち重要なものについて、一般向けの解説をネット上に掲載することについてどう思いますか？
26. ネット上での研究の解説2：研究者がWikipediaなどのサイトで自分の研究のキーワードを解説をすることについてどう思いますか？
27. 回答者のポジション(職種)：回答者の研究上の立場をお答えください
28. 回答者のポジション(任期)：あなた(=回答者)のポジションが任期制かどうかについてお答えください
29. 回答者の年齢：あなた(=回答者)の年齢をお答えください
30. 回答者の性別：あなた(=回答者)の性別をお答えください